

山形市には、蔵王や山寺という全国的にも有名な観光地があり、花笠祭りをはじめとする四季を通じたイベントやさくらんぼなどの特産品も多い。また、秋の風物詩であるいも煮会など、山形は変化に富んだ多くの魅力を持った都市である。

その魅力を伝えるためにパンフレットや独自の番組を作成し、首都圏をはじめ大都市圏に情報発信している。また、観光客の落ち込みが大きいスキー場については、直接大都市へ赴き、旅行業者や交通関係会社を訪問し、誘客活動を行っている。

このような状況の中で、新たな観光施策の一つとして映画やドラマの撮影を積極的に誘致し、地域経済の活性化に結び付けようという動きが近年活発になってきている。それを受け入れる組織がフィルム・コミッションである。

フィルム・コミッションの歴史は古く、1940年代後半にアメリカで誕生し、その後増え続け現在国際FC（フィルムコミッショナーズ）協会に加盟しているだけでも、世界31カ国に約300の団体がある。

日本でのロケ支援組織の立ち上げは遅く、平成12年に横浜、大阪、神戸、北九州という大都市で設立され、平成13年8月には、全国11カ所のFCが出席のもと、全国フィルム・コミッションが設立された。その後フィルム・コミッション設立の動きは急速に広まり、現在70を超える組織が誕生している。

東北においては、平成14年、15年の2年間に、各県にフィルム・コミッションが設立されたが、山形県にはまだなかった。

フィルム・コミッションの業務は大別して二つであり、一つは映画、ドラマ等のロケ撮影の誘致である。これはホームページを立ち上げたりロケーションガイドブックを作成し、その地域のフィルム・コ



テレビ東京「いい旅・夢気分」のワンシーン
写真中央は俳優の田中健さん（ロケ地：山寺）

ミッションをPRするとともに、首都圏の製作会社等を訪問し、撮影を積極的に依頼する業務である。二つ目はロケーション撮影の支援に関する業務である。これは各種許可申請の仲介をしたり、撮影に必要な施設、機材等に関する情報提供、さらにはエキストラの手配などである。

ロケ地になることのメリットは以前から認識されていた。現在多くの観光客でにぎわいを見せている北海道の富良野市は、ドラマ「北の国から」のロケ地になったことで有名である。また、近年では韓国ドラマ「冬のソナタ」が日本で放送されたことで、

バリューサイト VALUE SIGHT

地域の魅力を再認識 ロケーション誘致の 真骨頂

人を惹きつけて止まない観光地とは何か。地域が内包する“ホスピタリティ”こそ、人を魅了する源であると言われる。山寺や蔵王など、県内有数の観光地を抱える山形市にあって、あえて地域のソフト力を高めようとするには訳がある。まさに観光施策におけるパラダイムの転換すら感じられる。

多くの日本人観光客が韓国のロケ地を訪れるなどしており、その経済効果は年間約1,000億円にのぼるとまで言われている。

しかし、これまでロケ撮影の誘致はあくまで受け身であり、ややもすると、地元で費用負担を求められるのではないかと心配から、関与を避ける傾向も見受けられた。これに対して、新たな地域活性化の施策としていち早く取り組み始めたのが、先述の横浜をはじめとする大都市である。

ここで、山形市においてフィルム・コミッションが設立された背景について述べてみたい。

本市はこれまでも映像作品の舞台として利用されており、撮影地に関する情報提供や撮影への同行等を行ってきた。しかし、撮影支援としての窓口が一本化されていないことから、受け付けた団体によっ

ては業務の合間に対応せざるを得ないなど、十分な支援が出来ない場合も多く、かつノウハウも蓄積されにくく、一体的な対応が出来ない状況であった。

一方、県内は近年多くの映画の舞台となっており、置賜地方では「スウィングガールズ」が、庄内地方では藤沢周平作品が撮影され、一気に映画に沸き立った。しかし山形県は東北では唯一ロケ支援の組織がないことから、早期の設立が望まれていたところである。このような機運に後押しされて、本年4月に山形フィルム・コミッションが設立されることとなった。

村山



山形フィルム・コミッション
事務局長

水野 正登

フィルム・コミッションが設立されて数ヵ月が経過したが、現在は、エキストラの登録、ホームページの製作、ロケーションガイドの作成等を行っており、併せて首都圏に向けた営業活動を行っている。

また、フィルム・コミッション設立後は、ロケ受け入れ体制が一元化されたことから、これまでも何本かのロケに職員が同行しさまざまな支援を行っている。例えばドラマ等では、製作過程の中で当方の意見も取り入れられ、シナリオが一部変更されることにより山形をPRすることもできた。改めてフィルム・コミッションの役割を認識させられた。

フィルム・コミッションの目的は地域経済の活性化と述べてきたが、ここで注意しなければいけないのは、単に観光地紹介、PRすることではないということである。例えば「北の国から」のドラマで一躍

有名になった北海道の富良野のようになりたいというのでは、フィルム・コミッション活動は成功しない。撮影隊は山形への来訪者であり、その人たちを心からもてなし、さまざまな心づくしをすること。ただし、それはお金を使ったり、豪華な接待をすることではなく、地元の食材でもてなしたり、寒い時には温かい汁物を出したりという、ちょっとした心遣いが重要であると考え。

その結果、撮影隊と地域住民の交流が行われ、撮影隊の人たちに喜んでもらえることにより地域住民も元気になるということが大切なことである。

本市のフィルム・コミッションはまだまだスタートしたばかりであり、種々の活動が即ロケ誘致に結びつくことはなかなか難しい。

東北のある都市では、徹夜して撮影に協力した家族がテレビを見ていて、「あれがお父さんの足だよ」などと言ってみんなで楽しむ、そんなちょっとしたことが次の支援活動のエネルギーになっているという。また、中部地方のある都市では観光客が街を歩いていると、多くの市民が声をかけてくれて、「私たちの街はロケの街として頑張っているんだ。そして、こんなに素晴らしい所がたくさんあるから、是非楽しんで行ってほしい」という言葉をかけられるという。このように、市民が自信を持ち来訪客に誇れること、そして撮影のことがいつも話題になること、これがまさにフィルム・コミッションが目指す姿である。

そのためには、この組織の設置により行われるさまざまな活動を息長く続け、市民の方々にもこの活動を理解していただくとともに多くの市民に参加していただきたいと思うところである。

山形市がこのような街になることを願い、生まれただけのこの組織を大切に育てていきたいと思っている。

水野 正登 (みずの・まさと)

山形フィルム・コミッション事務局長。

昭和29年生まれ。

昭和52年山形市職員となる。

平成15年4月より観光物産課長。

平成17年4月より山形フィルム・コミッション事務局長を兼務。

山形フィルム・コミッション事務局：

(山形市観光物産課内)

〒990-8540 山形市旅籠町二丁目3 - 25

TEL 023-641-1212・FAX 023-641-1899